

シタキドクガ *Dasychira strigata* MOORE と

アカヒゲドクガ *Dasychira lunulata* BUTLER

の卵、幼蟲及び蛹

河 田 ^{アキラ} 黨

(農 林 省 農 事 試 験 場 昆 蟲 部)

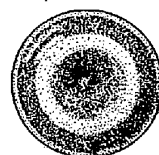
シタキドクガ *Dasychira strigata* MOORE (挿圖 2)

卵(挿圖 1)。球形、少しく扁平、上面中央は凹む。表面には細かい龜甲形網狀の趨がある。上半は暗黄綠色で、2 個の白色輪を有し、下半は白色。

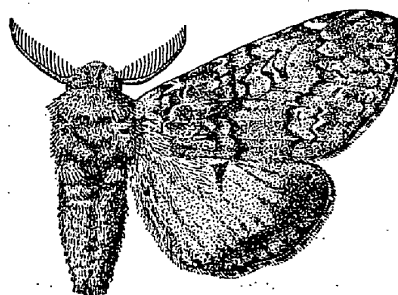
直徑、1.7mm. 高さ、1.3mm.

幼蟲 (圖版 II、第 1 圖)。

〔形態〕 頭部は正面から見るときは少々梯形で、高さは幅より短く、頭頂部前面の表面には、一般毒蛾科に同じく、第 2 次刺毛を散布する。前頭の高さは幅よりも短い。副前頭(Adfrontal piece)は甚だ狭く、前頭と共に第 2 次刺毛を缺く。上唇中央の縊れは甚だ深く、その央ば以上に達し、刺毛 vi は縁より少しく内方に存在する。胴部の各隆起に生えてゐる毛房はよく發達して、頗る長く、各毛には細い刺を密生する。前胸の左右から斜め前方に向つて少々長い數本の毛が突出してゐるが、餘り顯著でない。



挿圖 1. シタキ
ドクガの卵
(× 10)



挿圖 2. シタキドクガ成蟲 (× 1.5)

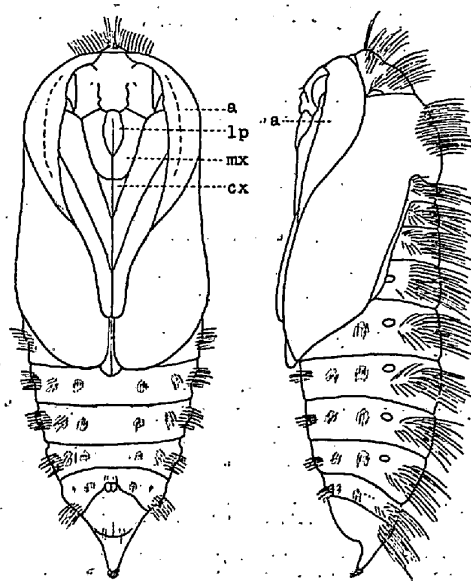
第1—4腹環節背上には叢毛を有する。各腹環節では隆起 α と β とは合一せず、 ρ は氣門の直上に存在し、 κ を缺き、氣門直下には η 、その下に μ が存在する。背上翻轉腺(Dorsal eversible gland)は唯1個第7腹環節上にある。腹脚の鉤は一様で、1列であることは一般の毒蛾科と同じである。

體長、45mm.

〔色彩〕 白色で黄綠色を帯びる。頭部は淡い明綠黄色で、前面の第2次刺毛が生じてゐる部分には淡黄褐色の細點を散布する。上顚の縁は濃赤褐色、胸部各環節の境は少々暗色を呈し、殊に前胸—第4腹環節間に於て甚しい。毛は白色で黄綠色を帯び、前胸、第8及び第9腹環節には少數の黑色毛を混じてゐる。第1—4腹環節上の叢毛は明黄色。胸脚は少々淡赤色を帯びる。

蛹 (插圖 3)。

〔形態〕 胸部、腹部を通じて背面には長毛を密生する。前頭、頭楯、複眼には長い刺毛は生じてゐない。頭頂—前頭接線 (Epicranial suture) は存在せず、觸角は中胸脚の略々中央に達し、先端尖り、雄では幹が高く隆起してゐる。頭楯及び上唇は突出せず、下顚は翅の約 $\frac{2}{7}$ に及ぶ。下唇鬚は現はれ、幅は左右の各下顚の幅に略々等しく、長さは下顚より短い。脚は短く、中央で左右が相接し、中胸脚は翅の $\frac{6}{7}$ に及ぶに過ぎない。可動腹環節には氣門溝なく、第8—10腹環節は漸次に細まり、尾端は尖る。尾突起は二等邊三角形をなし、先端に多くの鉤を有し、鉤の長さは尾突起の $\frac{1}{3}$ に達しない。



挿圖 3. シタキドクガの蛹 ($\times 3$)。

a. 觸角、cx. 前胸脚基節、
lp. 下唇鬚、mx. 下顚。

體長、21-22mm. 幅、8mm. 厚さ、8mm.

〔色彩〕 初めは略々一様な明綠色で、背面の毛は白色であるが、羽化前に至ると頭部、胸部、脚、翅、及び尾端は灰黃色を帶び、複眼は黑色を呈するに至る。

繭（圖版 II、第 2 圖）。太い紡錘形。幼蟲の毛を綴つて作られるので、幼蟲の背上の叢毛とその色は同じく、黃色を呈する。

長さ、30mm. 幅、20mm. 厚さ、15mm.

經過。年少くも 2 回の發生をする。1928 年 7 月 7 日に高尾山で採集した雌蛾を三角紙の中に包んで置いた所が、翌日から約 4 日間に亘つて産卵し、その卵は 7 月 20 日に始めて孵化した。そこで種々の植物の葉を與へて置いて、翌日見るとアベマキの葉を食してゐた。そこで之によつて飼育を續けてゐたが、或日都合でクヌギを與へて見た所が、之をもよく食ふので、それからクヌギで飼育することとした。かくして全體で 5 回の脱皮を行ひ、8 月 27 日に至り、食ひ残しの葉の間に繭を作るものがあつた。之は翌日蛹化し、9 月 8 日に至つては既に全部が蛹化し盡した。9 月 10 最初の 1 匹が羽化し、9 月 20 日までには一つ残らず蛾となつて了つた。

アカヒゲドクガ *Dasychira lunulata* BUTLER

卵。シタキドクガに全く同じ。

直徑、1.4mm. 高さ、1.1mm.

幼蟲（圖版 II、第 3 圖）。

〔形態〕 シタキドクガの幼蟲とは色彩は甚だ異なつてゐるが、構造に於ては殆んど同じく、僅かに次の諸點を異にするのみである。胴部の各隆起から生じてゐる毛房には 2 種の毛を混じ、その一つは頗る長く、剛強で、先端尖り、細き刺を多數に生じ、他の一つは比較的短く、軟弱で、羽毛狀を呈す

る。前胸には左右から斜め前方に向つて突出した長い刷毛状の毛束を有する。

第1-4及び第8腹環節背上には叢毛を有する。

體長、約 45mm.

〔色彩〕 黒色。頭部は黒色で黄褐色を帯び、腹面は赤褐色を呈する。頭楯及び上唇は白色で、淡褐色の條斑あり、上頤は赤褐色で縁は黒色。胴部も黒色で、橙黄色の斑紋が疎に散在し、長い剛毛は黒色、羽状の軟毛は白色、叢毛は暗黄褐色で、天鵝絨状。胸脚及び腹脚は赤褐色を帯びる。

蛹。

〔形態〕 シタキドクガとは一見色に於て甚だ異なるが、構造は全く同じく、唯第1-4腹環節背上の叢毛は尙一層顯著である。

〔色彩〕 赤褐色で、背面は暗色を呈する。氣門は黒色。第1-4腹環節背上の叢毛は少しく白色を帯びる。

繭 (圖版 II、第4圖)。太い紡錘形。幼蟲の毛を綴つて作られるので、幼蟲の背上の叢毛とその色が同じく、暗黄褐色に黒色の長毛と白色の羽状軟毛とを混する。

長さ、47mm. 幅、22mm. 厚さ、19mm.

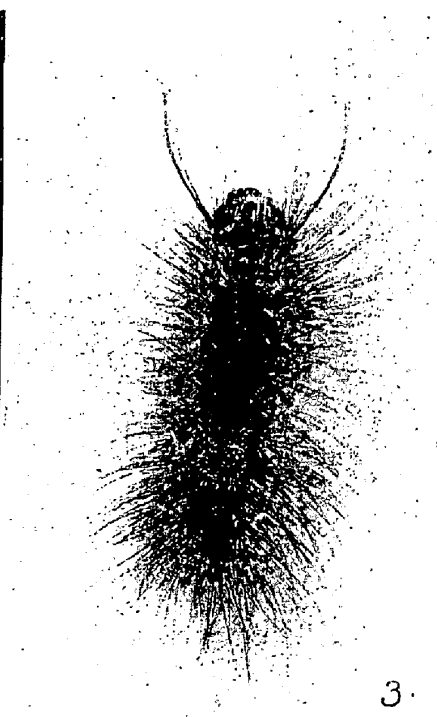
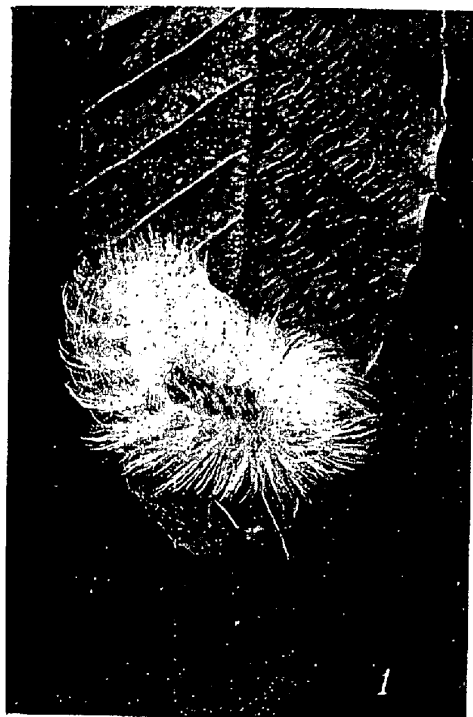
經過。年2回發生する。6月から7月に互つて生育した幼蟲は7月中旬から8月上旬に老熟して、繭を作り、その中に蛹化し、8月中旬に羽化する。幼蟲は再び9月より11月に互つて出現し、10月下旬から11月上旬に蛹化し、越冬して翌春4-5月に至つて羽化する。しかして繭は飼育器中に食ひ残された葉の間に作られてゐた。幼蟲はクヌギ、クリ等の葉を食する。

圖版 II 説明 (1 倍) 本庄伯耶氏撮影

- | | |
|---------------|--------|
| 1. シタキドクガの幼蟲 | 2. 同 繭 |
| 3. アカヒゲドクガの幼蟲 | 4. 同 繭 |

圖版 II.

Plate II.



H. HONJŌ photo.